

趣味の話 ～聖地巡礼(中編)～『秒速5センチメートル』

弁理士 中川 裕幸

前回に付き続き、アニメ作品の聖地巡礼について書いてみたいと思います。今回は新海誠監督の名作『秒速5センチメートル』です。

(1)序：映画『秒速5センチメートル』のこと

映画公開当時(2007年)、興味がなかったので劇場へ足を運びませんでした。短編処女作『ほしの声』(2002年)はSF的な要素も入っていたので見ており、「新海誠」の名前は知っていました。が、この処女作は非常に切ない話で、個人的にブルーな雰囲気苦手、その後、同監督の作品は敬遠していました。本作品は「アニメ好きなら見ておかないと！」というような、世間的なバイアスを受けて(笑)、数年後ようやく見た気がします。

ちなみに、本作品を知らない方のために、今回の聖地巡礼に関してのあらすじを書いておくと、第1部(3部構成)では、主人公の貴樹(たかき)が中学になって転校した友達の明里(あかり)を訪ねて、東京・世田谷の豪徳寺駅(小田急線)から栃木の岩舟駅(JR両毛線)まで鉄道旅をします。作品を始めて見た当時、放課後夕方になって豪徳寺駅を出発する主人公に対して、遅すぎだろーと突っ込んだ覚えがありました(案の定、大雪でひどい目に合うのですが、まあ、それがドラマですよ)。そのあと、二人が社会人になった話が第3部で、再び明里が両親とともに会話をする舞台として、岩舟駅が再登場します。

新海誠作品の余計な思い出を書いておくと、(都合で行けなくなった)娘からもらった、監督の舞台挨拶付のチケットを使い、西船橋のららぽーとで『言の葉の庭』(2013年)を生監督とともに鑑賞し(わ、こんな少年みたいな人が監督したんだ、と思いました。スマートフォンを使ってアンケートみたいなのをサラッとやって、当時ガラケーだったので世代間ギャップも感じました(苦笑))、『君の名は。』(2016年)は鉄道要素が入ったので2回見に行ったという感じです。後者で、『秒速5センチメートル』とのラストの対比が論じられていることを、なるほどと置いていたぐらいです。

(2)はじめての岩舟駅

かように特別に興味を持っていたわけではない『秒速5センチメートル』でしたが(ファンの方、ごめんなさい)、縁とは不思議なものです。今年初めに『バンダイおもちゃミュージアム』(ガンダムが目的でしたが、ヘンリー幸田先生が収集したエジソンの発明品コレクションがあり、知財関係者にとって一見の価値あり。最寄駅は東武日光線・おもちゃのまち駅)を訪ねた時の話をクライアントの玩具メーカーの担当さんと雑談していたら、本作品のファンである同氏から(私より若いけど若者ではない)「岩舟駅が近くですよ」と教えてもらい、へー、と思ったのが最初です。これで、すごく遠いと思っていた岩舟駅の東京からの距離感が初めてわかりました。

また、去年、山形の立石寺と比叡山を訪ねて天台宗の高僧・円仁さんに興味を持っていたのですが、なんと岩舟ご出身ということを知り、俄然行きたくなり、3月に決行しました。この初岩舟駅は、東武線で東武足利駅に行き、渡良瀬川を渡ってJRの足利駅から小山駅行きに乗っての訪問でした(『ガメラ2』で、レギオンとの最終決戦が足利だったので)。

さて、実際に岩舟駅に降り立ってみると、同駅は岩舟山を背景に広い畑がホームの眼前に広がる、作品で描かれた駅と全く変わらない素朴な駅でした。作品当時と異なり既に無人駅となっていました。駅舎は昔の雰囲気、駅の外へ出て畑の真ん中まで歩くと、あの雪中のシーンが思い起こされました。

当時、なぜ明里のお父さんがこんな辺鄙なところ(失礼!)に転勤するんだろ、と思ったのですが、実際に両毛線に乗ってみると、この沿線には十分に産業があることがわかります。改めて「岩舟」の名前を意識すると、岩舟山の裏には東北自動車道が走っており、N

HKの「おはよう日本」の交通情報で「岩舟」インターの名前を毎朝目にしますし、山手線車内に貼られたJR路線図にも「岩舟」の名前があります。また、隣の佐野に大きな産業団地もあり、知識がついた現在では「なるほど通勤あるワ」と、とても納得しています。両毛線は高崎と小山を結び、途中に前橋、桐生、足利、佐野、栃木といった中堅都市を結んでいて、東武線の太田や館林も近いとあっては、重要な産業路線で、いまは日中の寂しい時刻表を見るに、もっと本数が走っても良い路線だと思います。産業路線の中にあつて、奇跡的に田舎的風景が残る岩舟駅周辺を、新海誠監督は良く見つけたなあ、と感心してしまいます。

ファンは、今でも同作品の余韻を感じられますので、訪ねてみるとよいと思います。東京から日帰りできる北関東には、これほど豊かな土地が広がっているのだ、ということに気づかせてくれる聖地巡礼となるはずです。今人気の東武鉄道のスペースXで栃木駅に出るもよし(栃木駅から2駅目)、余裕がある方は新幹線で小山駅へ行くもよし(小山駅から4駅目)、アクセスは案外楽です。

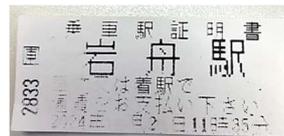


↑ 駅舎(無人駅)

↓ 大地が雪で覆われてるのを想像しましょうw ↓



駅前の風景→



(3) リアル貴樹行程

さて、一度、東京からの距離間がわかると、豪徳寺駅>岩舟駅の乗車を経験してみたいと思うのが乗り鉄のサガです(笑)。梅雨明けを待って、貴樹と同じルートで乗り鉄を準備してみました。

アマゾンプライムで一時停止を繰り返して本作品を復習し、貴樹が書いたメモから当時の行程を抜き書きしてみます(右表参照)。彼は、季節はずれの大雪で、夜遅く駅に到着したのはよいものの、明里と岩舟駅近くの農機具小屋で閉じ込められてしまうわけですが、本来、午後7時前には岩舟駅に到着する予定

	作品中の貴樹行程 (2007年・平日)	現在のリアル行程 (2024年・土曜)
豪徳寺駅	【小田急線】 15:54発	【小田急線】 13:15発
新宿駅	(着時刻不明) 【埼京線】 16:26発	13:30着 【新宿湘南ライン】 13:40発
大宮駅	【宇都宮線】 17:04発	↓
小山駅	(着時刻不明) 【両毛線】 18:23発	15:00着 【両毛線】 15:02発★
岩舟駅	18:45着	15:22着
所用時間	2時間51分	2時間7分

だったんですね(所用時間は2時間51分)。ただ、明里と岩舟駅で1時間弱話して午後7時半ぐらいに帰宅の途についてとしても、豪徳寺駅に帰宅するのは午後11時近くになっていたでしょうから、貴樹の両親は心配したのではないかと思います。

帰りが遅くなっても誰も心配してくれないおじさんとはいえ、夕方、陽が落ちた岩舟駅で帰りの電車を長い時間待つのもなんだかなあ、ということで、私はお昼過ぎに豪徳寺駅を出発しました。上記比較表を参照してもらおうとわかるのですが、今や新宿湘南ラインのおかげで大宮駅での乗換がなく、新宿駅から小山駅に直行できるため(新宿どころか、横浜の野毛で飲んだ後に横浜駅のホームで宇都宮行き列車を見かけます。湘南新宿ラインは偉大です)、貴樹ほど苦勞せず小山駅へ行くことができました(所要時間2時間7分)。但し、小山駅での、両毛線への乗換が2分しかないというハードルも存在し(上記★印)、これを逃せば、次の高崎行きは1時間後ですから、作品の所要時間よりかかってしまう、というトラップも存在します。このタイトな乗換は前もってわかっていたため、別日に小山駅へ行って、乗換をリサーチしておきました(2階のコンコースに上がって、東北新幹線脇を抜けて、同新幹線高架下のホームに降りるのですが、これが結構遠い)。今回、宇都宮線は小山駅の階段を考慮した車輌に陣取り、階段を駆け上がり、小走りして何とか間に合いました(車掌さんは、必死で階段を駆け下りる私を見て親切にも少し待ってくれたようです)。 **Googleマップ使用→**



← 豪徳寺駅

↑ (小田急) 新宿駅

(湘南新宿ライン) ↑

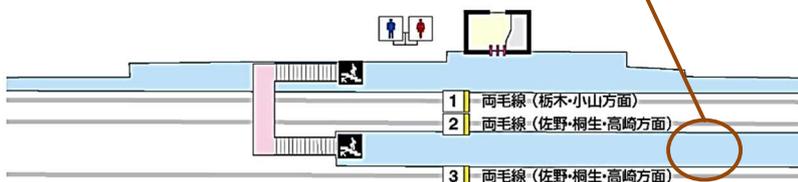


← 小山駅両毛線ホーム

(真上を東北新幹線が走る。ちなみに、乗換2分では写真を撮ってる時間はなく、下調べの際の写真。)



1F 第3部の明里と両親の立ち位置



↑ 岩舟駅構内図(出典：JR東日本のサイトより)

